



2018年 日化協LRI 研究報告会 ～化学物質の安全性評価に係る最新の研究動向について議論～

一般社団法人 日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：淡輪 敏（三井化学㈱社長）、以下「日化協」）は8月31日（金）、「2018年 日化協LRI 研究報告会」を東京証券会館ホール（東京都中央区日本橋茅場町）にて開催いたします。

LRI（Long-range Research Initiative：長期自主研究活動）は、日米欧の化学工業会が人の健康や環境に影響を及ぼす化学物質の影響を評価する優れた研究を長期的に支援する活動です。日化協 LRI では、化学産業が抱える喫緊の課題や社会のニーズに応える研究テーマを広く皆様に紹介するとともに、化学物質安全に関連する最新的话题を共有する場として研究報告会を毎年開催しています。

今年の報告会では、LRI 第6期研究12課題の進捗状況と成果について紹介する「ポスターセッション」に加え、午前の部では、「日化協LRI 賞受賞記念講演」、「LRI 第5期で完了した研究の報告および「2018 ICCA-LRI ワークショップ参加報告」を、午後の部では、「マイクロプラスチックの環境影響評価とLRIの取り組み」と題してシンポジウムを開催し、研究視点からマイクロプラスチックの課題や産官学の連携について議論することとしています。

（詳細は、添付の「2018年 日化協LRI 研究報告会プログラム」を参照ください。）

※日化協LRI 賞とは…“化学物質が人の健康や環境に与える影響に関する評価”について優れた研究実績をあげた若手研究者を支援するために、日本毒性学会および日本動物実験代替法学会のご協力の下で授与する賞です。

【開催概要】

- 開催日時： 2018年8月31日（金）
10:00～17:30（受付9:30より）
- 場所： 東京証券会館8階ホール（TEL：03-3667-9210）
東京都中央区日本橋茅場町1-5-8
（東京メトロ 日比谷線、東西線 茅場町駅8番出口）
- 参加費： 無料
- 参加申込： 2018年7月25日（水）より
日化協LRIサイトで案内 <https://www.j-lri.org/>
- 申込期限： 2018年8月29日（水）定員300名

■午前の部：

- ◇日化協LRI 賞受賞記念講演

- ◇第5期で完了した研究の報告（口頭発表2課題）

- ◇2018 ICCA-LRI ワークショップ 参加報告

■ポスターセッション（採択中LRI研究12課題）

■午後の部：

- ◇シンポジウム 「マイクロプラスチックの環境影響評価とLRIの取り組み」
 - ・講演4題
 - ・パネルディスカッション

〈本件に関するお問い合わせ先〉

一般社団法人 日本化学工業協会 LRI事務局 田所 TEL:03-3297-2575

<日化協 LRI 第6期 研究報告会プログラム>

日時：2018年8月31日(金) 10:30~17:30 (受付9:30~)

会場：東京証券会館 8階ホール (東京都中央区日本橋茅場町1-5-8)

プログラム:

敬称略

午前の部	
9:30	受付開始
10:00-10:05	開会挨拶 渡辺 宏 (一般社団法人 日本化学工業協会 専務理事)
	日化協LRI賞受賞記念講演
10:05-10:30	“Utilization of Reconstructed Cultured Human Skin models as an Alternative Skin for Permeation Studies of Chemical Compounds.” 【2017年度 日本動物実験代替法学会】 藤堂 浩明 (城西大学 薬学部 薬粧品動態制御学研究室 准教授)
10:30-10:55	「核内受容体作動性ハザードによる生殖発生毒性およびその評価系構築に関する総合研究」 【2018年度 日本毒性学会】 中西 剛 (岐阜薬科大学 衛生学研究室 教授)
10:55-11:05	LRI第5期 完了した研究の報告
11:05-11:25	「ゼブラフィッシュの神経分化を指標とする化学物質の発達神経毒性評価手法の開発」 代表研究者 西村 有平 (三重大学大学院医学系研究科統合薬理学 教授)
11:25-11:45	「メコン川流域における複合的な環境汚染に対する新規網羅的モニタリングシステムの開発とその実効性の検証」 代表研究者 平田 収正 (大阪大学大学院薬学研究科 応用環境生物学 教授) 発表者 松浦 秀幸 (大阪大学大学院薬学研究科 招聘教員)
11:45-12:00	「ICCA-LRI ワークショップ: “Demonstrating 21 st Century Methods and Critical Tools for Risk-Based Decisions” 参加報告」 半沢 昌彦 (日本化学工業協会 化学品管理部 部長)
12:00-12:10	第6期 研究の紹介
12:10-14:30	ポスターセッション ※展示は16:00まで 詳細は<参考資料>をご参照ください 13:00-13:45 奇数番号説明・質疑応答(コアタイム) 13:45-14:30 偶数番号説明・質疑応答(コアタイム)
午後の部	
	シンポジウム : テーマ「マイクロプラスチックの環境影響評価とLRIの取り組み」 座長: 岸村 小太郎 (日本プラスチック工業連盟 専務理事)
14:45-15:00	海洋ごみ・マイクロプラスチックに関する国際議論の動向 福島 健彦 (環境省 地球環境局 国際連携課長)
15:00-15:15	海洋プラスチック汚染に対する学界の取り組み 磯辺 篤彦 (九州大学応用力学研究所大気海洋環境研究センター 教授)
15:15-15:30	ICCA及び日化協LRIでの取り組み 坂田 信以 (日本化学工業協会 化学品管理部 常務理事)
15:30-15:45	LRI 採択研究の概要紹介 ~マイクロプラスチックの存在下、非存在下における魚類への生物蓄積と生物間濃縮に関する研究~(仮題) 鑓迫 典久 (愛媛大学大学院農学研究科 教授)
15:45-15:50	会場準備
15:50-17:20	パネルディスカッション (質疑応答含む) ファシリテーター : 坂田 信以 パネラー(五十音順) : 磯辺 篤彦、岩谷邦明(経産省素材産業課 課長補佐)、 岸村 小太郎、鑓迫 典久、福島 健彦
17:20-17:30	閉会挨拶 岩本 正和 (LRI顧問会議議長 : 早稲田大学 理工学術院総合研究所 教授)

<参考資料>

■LRI 第6期 研究(ポスターセッション発表テーマ)

敬称略

課題番号	研究課題	氏名	所属
① 15_PT01-01	エストロゲン作動性化学物質に対する新規 <i>in vivo</i> スクリーニング試験系の構築と低用量影響評価	中西 剛	岐阜薬科大学 衛生学教室
② 16_PT01-02	毒性発現経路および化学構造情報を指標とした薬物および化学物質に起因するヒト有害反応の予測法の開発	植沢 芳広	明治薬科大学 臨床薬剤学研究室
③ 17_PT01-01	<i>In vitro</i> 全身毒性試験チップデバイスの開発	福田 淳二	横浜国立大学 工学研究院 細胞組織工学研究室
④ 17_PT01-02	血中 cfDNA を用いた化学物質ばく露影響を全身的に予測するスクリーニング法の開発と胎児期ばく露影響予測への応用	宮崎 航	群馬大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 応用生理学分野
⑤ 18_S01-01	再構築皮膚モデルを用いた <i>in vitro</i> 皮膚感作性試験法 EpiSensA (Epidermal Sensitization Assay) のバリデーション研究	宮澤 正明	花王株式会社 安全性科学研究所
⑥ 17_PT02-01	機序に基づくカーボンナノマテリアルの有害性と発がんリスク評価法の確立	津田 洋幸	名古屋市立大学 津田特任教授研究室
⑦ 15_S03-01	化学物質の呼吸器感作性 <i>in vitro</i> 評価法の開発	善本 隆之	東京医科大学 医学総合研究所 免疫制御研究部門
⑧ 12_PT03-01	セリンプロテアーゼインヒター欠損細胞を用いた化学物質過敏症の高感度 <i>in vitro</i> 評価系の開発 副題:呼吸器アレルギー検出のための細胞を用いた <i>in vitro</i> 系の検討	中村 晃	東北医科薬科大学 医学部免疫学教室
⑨ 16_PT04-01	環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム (ChemTHEATRE)の構築	仲山 慶	愛媛大学 沿岸環境科学研究センター
⑩ 18_S04-01	PNEC 導出における種の感受性分布の役割とその簡易推定方法の探索	加茂 将史	産業技術総合研究所 安全科学研究部門
⑪ 17_S05-01	ディープフェノタイピング法に基づく化学物質の生物作用分析システムの開発	楠原 洋之	東京大学 大学院薬学系研究科
⑫ 18_S05-01	マイクロプラスチックの存在下、非存在下における魚類への生物蓄積と生物間濃縮に関する研究	鑓迫 典久	愛媛大学大学院 農学研究科

※当研究報告会では、記録として写真撮影をさせていただきます。

撮影した写真は、当研究報告会の紹介や 開催状況を伝える目的で、情報媒体上で使用場合があります。
 なお、撮影 使用にあたりましては、参加されている皆様方の個人が特定しにくいように十分に配慮いたします。